

『文化財と技術』

第10号

第一部 美術と技術の歴史

- 山中 理 美術史と金属工芸
 ー唐時代銀器「鍍金狩獵文六花形銀杯」の周りを廻ってー
- 金 跳 咏 原三国～三国時代における鉄製刀剣の製作技術とその意味
- 吉田秀享 鍛冶作業場の推定 ー二例の古代鍛冶炉からー
- 上 梶 武 日本古代の鉄鑄造と素材鉄
- 鈴木 勉 韓半島の鑄造技術と毛彫り技術から藤ノ木馬具・法隆寺へ
- 金 跳 咏 三国時代における鉄鐸の副葬と性格
- 平林大樹 根挟みを用いた後期・終末期古墳副葬矢の構造
- 姜 旼 廷 益山・笠店里古墳出土金銅飾履の復元製作研究

第二部 象嵌研究

- 鈴木 勉・金 跳 咏 威安末伊山5号墳出土象嵌鉄刀の線彫り技術
 ー線彫り技術判定の基準試料の提示ー
- 瀧瀬芳之 日本列島内出土象嵌遺物集成2
 ー刀剣・銚・刀子編（補遺・追加）及び馬具・鏡 他編ー

第三部 金石文研究

- 福井卓造 七支刀銘の「為倭王旨造」について
- 鈴木 勉 漧の技術・石刻の技術
- 鈴木 勉 會津八一先生筆色紙「心」について

第四部 復元研究

- <宮地嶽古墳出土大型頭椎大刀の復元研究>
- 鈴木 勉 復元の企画
- 鈴木 勉 復元のための調査と推定
- 藤安将平 (作刀補助：有賀一久・中西裕也 記録：金 跳 咏)
 刀身の復元
- 藤安将平 (記録：金 跳 咏)
 木製鞘の復元
- 藤安将平 (記録：金 跳 咏)
 木製柄の復元
- 山田 琢 金銅装の復元
- 鈴木 勉 鑄造鈴の復元

日本列島内出土象嵌遺物集成 2 — 刀剣・銚・刀子編（補遺・追加）及び馬具・鏡 他編 —

瀧瀬 芳之

本誌前号（第9号）で筆者は日本列島内の遺跡から出土した刀剣・銚・刀子を対象に、象嵌が施されている資料の集成を試みた。それは2018（平成30）年7月までに得た情報をもとにまとめたものである。その後、2年以上の月日が経過する間に、新たに象嵌遺物の出土が報告され、前号の集成において遺漏していた情報も少なからず得ることができた。そこで2020（令和2）年9月段階での集成結果を、工芸文化研究所の御好意で本号に掲載するものである。

刀剣・銚・刀子編 補遺

前号の集成のうち、当時未見であった文献や新たに刊行された文献、及びネット等から得た情報をもとに修正を加えた資料を一括したものである。No.は前号の集成のNo.をそのまま用いた。文献一覧には読者の便を図るため、追加したもの以外も含め、表に記したすべての文献を掲載している。なお、前号の集成において誤記があったものも訂正して掲載した。特筆されるのは、島根県内の象嵌資料を集成し考察された吉松優希氏の「島根県域出土の象嵌装大刀の諸様相」（吉松優希2019）である。この論考で島根県内の出土例が整理され、その様相がより明らかとなった。象嵌遺物に限らず、集成作業にはこうした地域に根付いた堅実な研究が必要不可欠である。また、東京国立博物館ホームページの画像検索サイト（<https://webarchives.tnm.jp/imgsearch/>）では、著作権の切れた文化財の画像を公開している。その中には、『東京国立博物館図版目録 古墳遺物篇』に掲載された象嵌遺物の保存処理後（象嵌表出後）の画像が含まれており、『目録』のX線写真では判然としなかった文様の詳細を知ることができる。

刀剣・銚・刀子編 追加

今回、新たに刀剣・銚・刀子編に加えることのできた象嵌遺物は19点である。追加資料として前号集成の続きNo.で掲載した。その結果、象嵌遺物の総数は627点、伝承を含めた出土遺跡の総数は483遺跡となった。この中には山口県内で初の出土例となった下小田古墳（No.626）がある。古墳時代における地域性や遺跡数を考慮すれば、既報告の出土遺物からの再発見を含め、今後も同県での象嵌遺物の報告が期待される。これで本州・四国・九州における象嵌遺物未発見の地域は、青森県・岩手県・秋田県・新潟県・高知県の5県となった。

かつて筆者は、鉄製刀装具における象嵌遺物の割合について、柄頭や鞘尻に用いられる円頭状刀装具201点中のうち105点に象嵌が施されていた（対象数は1997年2月当時）ことから、その割合を5割強と推測した。同じく鐔については、東京国立博物館に所蔵されている関東地方の出土品全84点を対象に算出し、有窓鐔は5割弱、無窓鐔は1割弱から象嵌が検出される可能性があることを指摘した（瀧瀬芳之・野中 仁1997）。当時と比較して対象となる鉄製刀装具の量は増加しているが、この割合は現在も大きく変動することはないと思われる。発掘調査で鉄製刀装具や鉄刀剣が出土したら、まずはX線透過撮影を実施して象嵌の有無を確認することをお勧めしたい。過去の調査で出土した未撮影の遺物に対しても同様である。象嵌の発見によって、その遺物や出土遺跡の評価が大きく変わる可能性があるからである。象嵌銘文の発見がその極端な一例といえよう。鉄製刀剣身に象嵌銘文が施されている確率はほぼゼロに近いが、それでもX線透過撮影の必要性を低く見積る理由にはならない。

なお、近年では、象嵌遺物にX線CT撮影を実施する例が増加している（宮田将寛 2017 など）。X線CT撮影は、内部の象嵌を傷めずに文様の構成や象嵌の構造、劣化状況を把握することができる非常に有効な手段である。経費の捻出などクリアすべき課題もあると思うが、ぜひ積極的に活用していただきたい。

馬具・鏡 他編

前号で告知していたとおり、刀剣・鉾・刀子以外の象嵌遺物の集成も合わせて掲載した。対象となった遺物の種類は、馬具・鏡・工具などである。その出土数は、伝ダンワラ古墳出土金銀錯嵌珠竜文鉄鏡（No.14）などの舶載品を含めても、刀剣類に遠く及ばない。象嵌という技術が、古墳時代においては刀剣類にほぼ専有されている事実が、改めて如実に表れた結果となった。

刀剣・鉾・刀子編では、古墳時代に限らず、古代（奈良・平安時代）まで降る象嵌遺物も対象とした。出土資料のみではなく、関連性を重視して一部の伝世品も含んでいる。本編においても同様の立場をとるが、伝世品は馬具の一部にとどめた。

古代に属する象嵌遺物の遺跡出土例としては、京都府京都市法住寺跡出土の鍬形と轡（No.6・7）があげられる。鍬形には鉄地に銅の平象嵌を施したのち、銅に鍍金・鍍銀するという特殊な技法が用いられている（西山要一 1984、中野政樹 1984）。時期は平安時代末期と考えられている。

また、福岡県久留米市良積遺跡例（No.12）は、鎖の一部にC字状の象嵌が検出された例である。注目すべき遺物にもかかわらず報告書の情報は乏しく、写真のみで実測図や計測データは掲載されていない。鎖は3連のものが2点出土しているようであるが、そのどちらに（どちらにも）象嵌があるのかは報告されていない。2点の形状はほぼ変わらないため、一具と考えれば、鐙を吊るす兵庫鎖の可能性が高い。年代は11世紀と推定されている。

象嵌の施された兵庫鎖を有する鐙には、伝世資料では平安時代（12世紀）作とされる手向山神社蔵の壺鐙「宝相華唐草文象嵌壺鐙」（No.10・11）がある。兵庫鎖には唐草文が象嵌されているとされるが、剥落が多く文様の全体像は明らかではない。兵庫鎖の形状からも良積遺跡例との類似性が指摘できる。出土品の類例を一つあげると、象嵌の有無は不明であるが、青森県平川市古館遺跡出土の鐙金具がある（長谷川潤一 他 1980）。遺構には帰属していないが、古館遺跡は平安時代末期に営まれた館跡であり、鐙の年代観も当期に求められよう。

今回の集成では10遺跡18点をあげるにとどまった。刀剣類と異なり、自身の知見や資料の蓄積が乏しいため遺漏も多いことと思う。ご容赦願うとともに、情報をご存知の方はご教示いただければ幸いです。

参考文献

瀧瀬芳之・野中 仁 1997 「象嵌遺物の保存処理」『考古資料保存研究会だより』No.1 考古資料保存研究会 pp.2

— 6

中野政樹 1984 「雲龍文鍬形の象嵌技法について」『法住寺殿跡』平安京跡研究調査報告第13輯 財団法人古代学協会 pp.150・151

西山要一 1984 「雲龍文象嵌鍬形の保存処理・材質分析とその製作技法について」『法住寺殿跡』平安京跡研究調査報告第13輯 財団法人古代学協会 pp.144—149

長谷川潤一 他 1980 『碓ヶ関村古館遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第54集 青森県教育委員会

宮田将寛 2017 「伝埼玉将軍山古墳出土象嵌円頭柄頭のX線CT調査について」『埼玉県立史跡の博物館紀要』第10号 埼玉県立史跡の博物館 pp.61—63

No.	遺跡名・遺物名	所在地	遺構種類	規模(m)	共通遺物	遺物の種類	鏢の形式	鏢の文様							文献	備考	
								柄頭	柄頭縁	柄尻縁	柄尻	鏢の耳	鏢の平	鏢			柄縁
451	寺山古墳	兵庫県明石市魚住町錦ヶ丘	円墳	15	鉄鏢/馬具(鏢珠)/耳環/玉類/須臾器/埴輪	鞘口・鞘尻								鞘口・亀甲文		稲原昭雄2012/橋本英智2012/明石市文化・スポーツ部文化振興課文化財係2013	
453	緒越古墳	兵庫県豊岡市日高町緒越小字森理	円墳	30	鉄刀/鉄鏢/刀子/馬具(鏢珠)/須臾器/土師器	緑金具・鞘尻										榎本誠一他1976/西山要一1986/但馬国府・国分寺館2006	
491	市尾宮塚古墳	奈良県高市郡高取町市尾	前方後円墳	44	鉄刀/鉄鏢/弓金具/馬具(鏢珠)/須臾器/土師器	楔形柄頭大刀										木場幸弘2018	財教委・福考研1998年調査。
502	浜坂14号横穴墓	鳥取県鳥取市浜坂	横穴墓		鉄刀/鉄鏢/耳環/玉類/須臾器	無窓鐙付大刀	無窓				ハート形文	不明				鳥取県立博物館2009/鳥取県2020	
506	郊塚平1号墳	鳥取県倉吉市谷字郊塚平	円墳	10	鉄刀/刀子/鉄鏢/鏢珠/耳環/玉類/須臾器	無窓鐙付大刀	無窓				交互重半円文	渦状文	C字状文			根崎輝雄他1988/土井珠美1994/鳥取県埋蔵文化財センター2008	鏢は毎日新聞鳥取県版1992年1月18日付記事による。
511	坂本2号横穴墓	鳥取県日野郡日南町霞	横穴墓			円頭大刀	八窓				渦状文	渦状文				日南町教育委員会2003/鳥取県立博物館2008/鳥取県埋蔵文化財センター2009	
516	上峰谷横穴群8支群5号横穴墓	鳥取県出雲市上峰治町	横穴墓		鉄刀/刀子/須臾器	鐙	八窓									遠藤正樹2003/株式会社トリアド工房2004/吉松隆希2019	
519	妙蓮寺山古墳	鳥取県出雲市下志志町	前方後円墳	49	鉄鏢/刀子/鏢珠/馬具(鏢珠)/玉類/須臾器/埴輪	円頭柄頭										山本 潤1984/鳥取県教育委員会1994/吉松隆希2019	
520	小汐手A群2号横穴墓	鳥取県安来市黒井田町	横穴墓		鉄刀/鉄鏢/刀子/玉類/須臾器	耳象嵌装大刀	八窓									安来市1999/吉松隆希2019	吉松2019の象嵌装大刀a白群4号横穴墓の出土遺物の可能性あり
521	小汐手B群4号横穴墓	鳥取県安来市黒井田町	横穴墓		鉄刀/耳環/須臾器/土師器	耳象嵌装大刀	無窓				対向半円文	なし				安来市1999/吉松隆希2019	吉松2019の象嵌装大刀b白群2号横穴墓の出土遺物の可能性あり
522	宮内工区1号横穴墓	鳥取県安来市宮内町	横穴墓		鉄鏢/刀子/馬具(鏢珠)/帯留金具/須臾器/土師器	耳象嵌装大刀	八窓									宮本正保・山尾一郎1983/吉松隆希2019	
530	道上古墳	岡山県新見市上神代字道上	円墳	8.5	鉄刀/鉄鏢/馬具(鏢珠)/帯留金具/刀子/耳環/玉類/須臾器/土師器	無窓鐙付大刀	無窓									岡本寛久1978/尾上元規2008	
555	元岡古墳群G群6号墳	福岡県福岡市西区大字元岡	円墳	18	鉄刀/鉄鏢/刀子/鏢珠/斧/鏢珠/馬具(鏢珠)/耳環/玉類/須臾器	金脚装大刀										大塚紀章2013/大塚紀章他2018	金脚装銘文「大塚康真正月六日庚寅日所作刀凡十ニ葉口(補刃)」

日本列島内出土象嵌遺物集成 (刀剣・鉾・刀子編) 追加

No.	遺跡名・遺物名	所在地	遺構種類	規模(m)	共存遺物	遺物の種類	鏢の形式	象嵌文様						文献	備考	
								柄頭	柄頭縁	鞘尻縁	鞘尻	鏢の耳	鏢の平			柄
609	熊鷹堂21号構六墓	福島県いわき市平沼磁字北ノ作	構六墓		刀子	鏢	八窓								末永成清・千田一志2020	
610	助戸山3号墳	栃木県足利市助戸3丁目	前方後円墳	28	鉄刀/鉄鏢/馬具(轡)/耳環/玉類/須恵器	有窓鐔付大刀	八窓								足利市教育委員会文化課2003/足利市教育委員会文化課2004	
611	番匠峰1号墳	栃木県足利市幸岡・片俣	円墳	21	鉄刀/刀子/鉄鏢/耳環/玉類	有窓鐔付大刀	八窓								香瀬は香報告・香瀬沢町2000に「鐔に銀象嵌の文様があることがレントゲン写真で判明した。」との記載あり(p.287)。	
612	お着名古墳	群馬県高崎市足門町字金井穴	円墳	25	鉄刀/鉄鏢/刀子/馬具(轡)/耳環/玉類/須恵器/埴輪	円頭柄頭もしくは鞘尻									かみつげの里博物館2019	
613	志つね山古墳群之号墳	群馬県高崎市西平井(丘)	不明			鉄刀									小嶋 篤2020	
614	志つね山古墳群之号墳	千葉県柏市大室	円墳	20	鉄刀/刀子/鉄鏢/玉類	耳象嵌大刀	六窓								山口和夫・大石佳弘1987	柏市文化課高城丘御祭示HPより
615	盛清古墳群遺跡4号墳	静岡県焼津市焼津	円墳		耳環/須恵器	鍔金具									山口和夫・大石佳弘1987	HPより
616	寺西1号墳	愛知県豊橋市石巻小野田長字寺西	円墳	25	鉄刀/鉄鏢/刀子/ヤリ/石突/耳環/龍/須恵器/土師器	鏢	八窓								歌川 学1966/愛知県2005/荒木亮子2018	詳細不明
617	平古古墳	愛知県豊橋市石巻小野田	円墳	12	鉄刀/刀子/鉄鏢/馬具(轡)/玉類/須恵器	鏢	八窓か								松田 繁・堀本真美子2016	
618	蓮池3号墳	大阪府和泉市鶴山台	円墳	15	鉄刀/馬具(轡)/釘/耳環/玉類/須恵器	無窓鐔付大刀	無窓								森 浩一他1966/織納民之2009	
620	東新田古墳	兵庫県神崎郡福崎町西田原字基新田	円墳	16	鉄鏢/馬具(轡)線/耳環/玉類/須恵器	無窓鐔付大刀	無窓								福岡町立神崎郡歴史民俗資料館2014	
622	東宗像1号墳	鳥取県水上市宗像	円墳	12	鉄刀/刀子/鉄鏢/耳環/玉類/須恵器	鏢	不明								福岡町教育委員会他2015	
624	北山2号墳	鳥取県八頭郡八頭町大字北山字野ノ前	円墳		鉄刀/刀子/鉄鏢/鍔/龍/玉類/須恵器	鏢	八窓								鳥取県2020	
625	大西大師山遺跡17号構六墓	鳥取県大田市久手町波根西	構六墓		鉄刀/鉄鏢/刀子/須恵器/土師器	鐔付大刀									八頭町1979/鳥取県2010	
626	下小田古墳	山口県熊毛郡田布施町大字宿井	古墳		鉄刀/鉄鏢/馬具(轡)鍔/鍔/鍔/鍔/馬具(轡)/耳環/玉類/須恵器/土師器	鏢									宮本正徳2016/林 健亮・森 愛子2017	
627	溝平古墳	鹿児島県出水市文化町字遺構園	地下式版瓦葺石室墓		鉄刀/鉄鏢/刀子/鉄鏢/鍔/石突/耳環/玉類/須恵器/土師器	円頭柄頭もしくは鞘尻									上山佳彦 他2020	
															寺師見聞1958	東博HP画像検索サイトより

日本列島内出土象嵌遺物集成 2 文献一覧

(あ)

愛知県 2005『愛知県史』資料編3 考古3 古墳

赤木 剛 1993「出土遺物について」『上寒之谷1号墳』豊橋市埋蔵文化財調査報告書第16集 豊橋市教育委員会 pp.59-73

明石市文化・スポーツ部文化振興課文化財係 2013『平成21年度明石市埋蔵文化財年報』

浅科村 2005『浅科村史』

足利市教育委員会文化課 2003『平成13年度文化財保護年報』足利市埋蔵文化財調査報告第48集

足利市教育委員会文化課 2004『平成14年度文化財保護年報』足利市埋蔵文化財調査報告第50集

荒木亮子 2018「寺西1号墳出土の鍔のX線透過撮影」『愛知大学総合郷土研究所紀要』第63輯 愛知大学 p.162

(い)

伊勢野久好 1997『宮ノ下古墳群』一志町埋蔵文化財調査報告14 一志町教育委員会

稲原昭嘉 2012「寺山古墳」『明石の古墳II』発掘された明石の歴史展実行委員会 pp.17-22

(う)

上山佳彦 他 2020『森国遺跡 下小田遺跡』山口県埋蔵文化財センター調査報告第104集・田布施町埋蔵文化財調査報告第8集 公益財団法人山口県ひとつくり財団山口県埋蔵文化財センター・田布施町教育委員会

歌川 学 1966「寺西第一号発掘調査概報」『愛知大学文学論叢』第32輯 愛知大学文学会 pp.1-25

梅原末治 1923「大和国高市郡松山の葡萄鏡出土の古墳」『歴史と地理』第11巻第2号 筆文社星野書店 pp.26-38

梅原末治 1963「豊後日田出土の漢金銀錯嵌珠龍文鉄鏡」『国華』第853号 国華社

(え)

遠藤正樹 2003『上塩冶横穴墓群第8支群』出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書第13集 出雲市教育委員会

(お)

大塚紀宜 2013『元岡・桑原遺跡群22』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1210集 福岡市教育委員会

大塚紀宜 他 2018『元岡・桑原遺跡群30—元岡古墳群G-6号墳・庚寅銘大刀の考察—』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1355集 福岡市教育委員会

大安場史跡公園 2010『群集墳の時代—7世紀の郡山—』

岡本寛久 1978「道上遺跡」『中国縦貫自動車道建設に伴う発掘調査13』岡山県埋蔵文化財調査報告(23) 岡山県教育委員会 pp.183-264

尾崎 誠 2001「保存処理を実施した象嵌資料」『元興寺文化財研究』No.78 財団法人元興寺文化財研究所 pp.1-6

尾上元規 2008「センター収蔵品紹介 vol.5—銀象嵌で飾られた刀—」『所報吉備』第44号 岡山県古代吉備文化財センター p.7

(か)

鏡山 猛 他 1958『沖ノ島』吉川弘文館

賀川光夫 1993「金銀錯嵌珠竜文鉄鏡—伝日田市ダンワラ古墳出土—」『史学論叢』第23号 別府大学史学研究会 pp.1-15

株式会社トリアド工房 2004「上塩冶横穴墓群出土金属製品の保存処理及び修復」『上塩冶横穴墓群第3支群』出雲市埋蔵文化財発掘調査報告書第14集 出雲市教育委員会 pp.17-22

金子彰男 2019『南塚原72号墳・新羽倉遺跡・中道遺跡第28地点』神川町埋蔵文化財調査報告第14集 神川町教育委員会

かみつけの里博物館 2019『飾り大刀 武器からみた古墳時代のぐんま』

(き)

木場幸弘 2018 『市尾宮塚古墳発掘調査報告書』高取町文化財調査報告第 42 冊 高取町教育委員会

(こ)

小嶋 篤 2020 「象嵌大刀と刀装具の世界」『大宰府前夜—筑紫の大宰と豪族—』九州国立博物館 大宰府 pp.12
-23

(さ)

堺市博物館 2001 『特別展 堺発掘物語—古墳と遺跡から見た堺の歴史—』

佐久間正明 他 2002 『蝦夷穴横穴墓群—12・13号横穴調査報告—』郡山市教育委員会

佐久間正明 他 2004 『蝦夷穴横穴墓群—12・13号横穴出土遺物報告—』郡山市教育委員会

(し)

島根県教育委員会 1994 『妙蓮寺山古墳と出土円頭大刀柄頭』

(す)

末永成清・千田一志 2020 『餓鬼堂横穴群3』いわき市埋蔵文化財調査報告第 188 冊 いわき市教育委員会

鈴木敏中 2007 「三島市郷土資料館所蔵考古資料(6)」『三島市埋蔵文化財発掘調査報告XII』三島市教育委員会
pp.50-60

(そ)

繰納民之 2009 「大阪府和泉市道田池古墳群出土資料調査報告」『同志社大学歴史資料館館報』第 22 号 同志社大学
歴史資料館 pp.83-128

(た)

高田知恵 2005 『良積遺跡V』久留米市文化財調査報告書第 214 集 久留米市文化観光部文化財保護課

高槻市教育委員会 2002 『第6次今城塚古墳の調査(現地説明会資料)』

高槻市立今城塚古代歴史館 2012 『よみがえる古代の煌き—副葬品にみる今城塚古墳の時代—』

高萩千秋 1993 『高安古墳群 芝塚古墳』財団法人八尾市文化財調査研究会報告 38 財団法人八尾市文化財調査研
究会

高根沢町 2000 『高根沢町史』通史編 I 自然 原始古代・中世 近世

但馬国府・国分寺館 2006 「但馬国府・国分寺館名品ギャラリー ⑤銀象嵌刀装具」『但馬国府・国分寺館ニュース』
第 6 号 但馬国府・国分寺館 p.4

棚倉町教育委員会 2014 『流廃寺総括報告書』

(て)

寺師見國 1958 「鹿児島県の地下式板石積石室」『鹿児島県文化財調査報告書』第 5 輯 鹿児島県教育委員会

寺島孝一 他 1984 『法住寺殿跡』平安京跡研究調査報告第 13 輯 財団法人古代学協会

(と)

土井珠美 1994 「鳥取県郊家平古墳群の鉄器について」『文化財学論集』文化財学論集刊行会 pp.185-194

東京国立博物館 1980 『東京国立博物館図版目録 古墳遺物篇(関東I)』

東京国立博物館 1983 『東京国立博物館図版目録 古墳遺物篇(関東II)』

東京国立文化財研究所 1998 『東京国立文化財研究所所蔵 X線フィルム目録 I —考古資料編—』

鳥取県 2020 『新鳥取県史(資料編)』考古2 古墳時代

鳥取県立博物館 2008 『企画展 因幡・伯耆の王者たち』

鳥取県立博物館 2009 『浜坂横穴墓群出土の鉄刀に象嵌文様を発見』

鳥取県埋蔵文化財センター 2009 『鳥取県の考古学第5巻 古墳時代II くらしと社会』

富澤敏弘 1990 『水泉寺地区遺跡群』北橋村埋蔵文化財発掘調査報告書第 7 集 北橋村教育委員会

(な)

奈良国立博物館 2004 『特別陳列 金飾の古墳時代—副葬品にみる日韓交流の足跡—』

(に)

西山要一 1981 「X線透過試験による古墳時代刀剣の調査—素環頭大刀と象嵌のある刀装具について—」『出土遺物・民俗文化財へのX線透過試験の応用』元興寺文化財研究所保存科学研究室 pp.15-27

西山要一 1986 「古墳時代の象嵌—刀装具について—」『考古学雑誌』第72巻第1号 日本考古学会 pp.1-30

西山要一・植村明男・樋口吉文・榎本 哲・塚原二郎 2009 「古墳時代金属象嵌の技術と編年—百舌鳥大塚山・シ
シヨツカ・武蔵府中熊野神社古墳等新資料の研究—」『日
本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集』日本文
化財科学会第26回大会実行委員会 pp.240・241

日南町教育委員会 2003 『坂本横穴墓群発掘調査報告書』

新田町 1987 『新田町誌』第2巻 資料編(上) 原始・古代 中世 近世

日本馬具大観編集委員会 1991 『日本馬具大観』第2巻 古代下 日本中央競馬会

(ね)

根鈴輝雄 他 1988 『郊家平古墳群発掘調査報告書』倉吉市文化財調査報告書第46集 倉吉市教育委員会

(は)

橋本達也 2016 『えびの市 島内139号地地下式横穴墓 象嵌鍛冶具の新発見』えびの市教育委員会

橋本英将 2012 「寺山古墳出土の象嵌刀装具」『明石の古墳Ⅱ』発掘された明石の歴史展実行委員会 pp.71-76

畠山忠雄 1970 「北佐久郡浅科村土合1号墳の調査」『長野県考古学会誌』第9号 長野県考古学会 pp.9-14

八東町 1979 『八東町誌』

林 健亮・秦 愛子 2017 『大西大師山遺跡(18・19号横穴墓)・城ヶ谷遺跡(2区)』一般国道9号改築工事に伴
う埋蔵文化財発掘調査報告書9 島根県教育委員会

(ひ)

櫃本誠一 他 1976 『楯縫古墳・岩倉古墳群調査報告書』日高町文化財調査報告書第3集 日高町教育委員会

(ふ)

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 1988 『昭和62年度発掘調査報告会資料』

福井市 1990 『福井市史』資料編1 考古

福崎町教育委員会 他 2015 「福崎町文化財だより67 文化財再発見60 東新田古墳(西田原字東新田)」『広報ふ
くさき』2015年6月号 福崎町 p.11

福崎町立神崎郡歴史民俗資料館 2014 『福崎の古墳の魅力—よみがえった輝き—』福崎町立神崎郡歴史民俗資料館
図録No.20

福島県立博物館 1988 『日本刀の起源展—直刀から彎刀へ—』

(ま)

前田清彦 他 1989 『船山第1号墳発掘調査報告書』豊川市教育委員会

榎本 哲 他 2009 『加納古墳群・平石古墳群』大阪府教育委員会

松田 繁・堀木真美子 2016 『埋蔵文化財発掘調査報告書—馬乗古墳群・平古古墳・権現山古墳・三月田第2・3号墳・
丸山古墳—』蒲郡市教育委員会

町田 章 1987 「岡田山1号墳の儀仗大刀についての検討」『出雲岡田山古墳』島根県教育委員会 pp.84-98

(み)

三島市 1957 『三島市誌』上巻

宮本正保 2016 『大西大師山遺跡』一般国道9号改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書7 島根県教育委員会

宮本正保・山尾一郎 1993 『一般国道(安来道路)建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書(越峠遺跡・宮内遺跡)』
島根県教育委員会

(も)

本村豪章 1979 「大和・高取町松山古墳出土の鉄鏡について」『MUSEUM』No.340 東京国立博物館 pp.17-27

森 浩一 他 1966 『信太山遺跡調査概報—大阪府和泉市—』 信太山遺跡調査団

(や)

八尾市 2017 『新版八尾市史 考古編 1—遺跡からみた八尾の歩み—』

屋代方子 1978 『番匠峰古墳群』 矢板市教育委員会

屋代方子 1981 『栃木県における胴張りを持つ石室』

安来市 1999 『安来市誌』 上巻

山口和夫・大石佳弘 1987 『道添遺跡』 焼津市埋蔵文化財調査報告書第IV 焼津市教育委員会

山本 清 1964 『妙蓮寺山古墳調査報告』 島根県教育委員会

(よ)

吉松優希 2019 「島根県域出土の象嵌装大刀の諸様相」『島根考古学会誌』第 36 集 島根考古学会 pp.31-48

(わ)

渡辺博人 2003 『大牧 1 号墳発掘調査報告書—同 2 号墳・3 号墳の発掘調査—』 各務原市文化財調査報告書第 37 号
各務原市埋蔵文化財調査センター

追記

脱稿後、新たに下記の象嵌資料が存在することを知ったので、紹介しておきたい。

・上境滝の台第 3 号墳 茨城県つくば市上境 前方後円墳 30 m

柄頭(頭椎) 縁金具に半円文、八窓? 鐔平に渦文、鐔耳に交互重半円文

三浦裕介 2021 『上境滝の台古墳群、上境作ノ内遺跡 2・上境作ノ内古墳群』 茨城県教育財団文化財調査報告書
第 450 集 公益財団法人茨城県教育財団

・宗小路 19 号墳 静岡県静岡市駿河区北丸子 方墳 20 m

無窓鐔付大刀の鐔平と釦にハート形文、鐔耳に渦文

毛利舞香 2020 「資料紹介—静岡・清水平野周辺における古墳時代後期の副葬品—」『ふちゅ〜る』No.29 令和
元年度静岡市文化財年報 静岡市教育委員会 pp.45-46

・百舌鳥大塚山古墳 大阪府堺市西区上野芝町 前方後円墳 168 m

鉄鏡の鏡背に竜、鏡面に竜と鳳凰

西山要一・米田文孝・橘 泉 2021 「百舌鳥大塚山古墳出土鉄鏡の象嵌文様」『関西大学博物館紀要』第 27 号
関西大学博物館 pp.11-20

文化財と技術 第10号

2021年 9月30日 印刷

2021年10月 1日 発行

編集 鈴木 勉
発行 特定非営利活動法人 工芸文化研究所
所長 鈴木 勉
発行所 特定非営利活動法人 工芸文化研究所
所長 鈴木 勉
東京都台東区根岸5-9-19 (〒110-0003)
印刷 千葉刑務所
千葉県千葉市若葉区貝塚町192 (〒264-8585)